

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3090100136		
法人名	有限会社 西日本マインド		
事業所名	グループホーム このみ		
所在地	和歌山市布引935-1		
自己評価作成日	平成25年9月19日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100136-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100136-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年10月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

重度化していく中で、入居者一人ひとりの想いに寄り添い・傾聴・共感できる環境を作り、なおかつ御家族の強い協力を得て、アットホームなグループホームです。入居者一人ひとりが、ポジティブでそれぞれに自己主張ができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、理念に地域の中で安全に安心して暮らし続けられるようにと意思を込め、併設の小規模多機能事業所と共に地域に密着した事業所を目指し取り組んでいます。職員は、利用者がいつでも自由に発言できる関係作りを大切に、墓参りや知人に出会う為に併設のデイサービスへ自由に出かけるなど、職員は見守りながら利用者の意向を大切に支援しています。また職員も一緒に付き添い、デイサービスと交流する事でレクリエーションや笑顔に繋がるケアを工夫するなど、利用者に喜んでもらえる取り組みが増えています。職員間の連携も図られ、相互に刺激し合いながら学び、研修にも積極的に参加するようにしています。家族会には全家族が参加し、日頃の利用者の生活ぶりをスライドで観賞し、利用者が笑顔で暮らし思っている事が言える環境を見てもらっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に皆で理念を唱和している	併設の小規模施設と合同で作られた理念は、事業所が地域の一員として在り、地域住民と関わりながら安全に安心して暮らし続けられるようにと思いが込められています。職員は、地域住民との挨拶を積極的に行い、理念が活かされているか日々のケアの中で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民のボランティアや近くの幼稚園児の訪問など地元の人々と交流することに努めている	幼稚園児が遊戯の披露で訪れたり、小学校の運動会の見学に出かけています。地域の溝掃除に参加ができるようになり地域との交流が広がっています。消防訓練に参加してもらったり、菜園作りの指導など気軽にホームを訪れ気にかけてもらっています。散歩や外出先では挨拶を交わし、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会の後、運営推進会議の中、地域の方々に認知症の方への理解や事務所の支援への取り組みを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会への後の年2回にとどまっている。地域の方の家族様の参加のみにはなっているが報告や話し合いはなされている	会議は民生委員、幼稚園の園長、近隣住民などの参加を得て、年6回開催しています。その内2回は家族会も同時に開催し、全員の家族が参加しています。スライドを見てもらいながら半年間の活動報告を行い、意見交換をしています。出された質問や意見は運営に反映させ、検討した結果は手紙で家族に知らせています。	運営推進会議が更に有意義な会議となるよう、地域包括支援センター職員や市の担当者に参加を呼びかけてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは認定調査時のみになっているが、認定の中手も事業所の実情サービスの取り組みを積極的に伝えている	介護認定更新時期や事故報告、相談事項など分からないことは積極的に市の担当者を訪ね、ホームの実情も伝えながら良好な関係を築いています。市の研修案内が届けば積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて拘束のないケアを目指し、ミーティングなどに意見交換しスタッフの意識を高めるよう取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルを用いて、月一回開催している全体会議や日々のミーティングで周知しています。言葉遣いや対応が身体拘束につながっていないか、日々のケアの中で振り返るようにしています。玄関は開錠し、エレベーターも自由に使い、外に行きたい利用者には付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、着替え等でアザ等を見つけた場合、その都度報告し合っている		

グループホーム このみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、情報提供し、成年後見人を活用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方が納得されるまで何回もカンファレンスを設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見苦情等は訪問時に出来るだけ意見を伺っている。年2回の家族会には意見交換の場を設けられそれらを運営に反映させられるよう努めている	家族の面会が多く、職員は利用者の様子を伝えながら家族に意見を聞いています。思っていることが何でも言える関わりを大切にし、利用者の様子を見て家族の安心にも繋がっています。家族会は全家族が参加し、意見交換の場となっています。写真や一言メッセージを載せる便りが、家族から意見を聞ききっかけになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い職員の意見など交流の場を設け、外出・日ごとと違うイベントなど意見・提案など取り上げてくれています。	月1回のミーティングや朝の申し送り時に活発な意見交換が行なわれ、意見が出しやすい雰囲気になるように心がけています。家族会の企画についてや使用していない洗面台を撤去して寛げるスペースを確保するなど、出された意見は検討し運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職員の提案、意見等を取り入れ実績に向けて努めている。毎年給料・賞与などに反映してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員や一人一人スキルアップに向けて法人内での研修に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が交代で研修を受けれる機会をつくり、当事業所のサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではスタッフが常に寄り添い不安、困りごとを傾聴共感できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも初期段階の想いを傾聴共感、共有できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族それぞれの想いを感じ、必要なサービスを情報提供し利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にし昔の歌を一緒に唄ったりしながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは情報交換をし本人の想いを大切にし共有しながら信頼関係を築いていけるよう支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々1Fのデイに下りてきて馴染みの方にあったりしている	馴染みの店での外食や買い物に出かけたり、自宅近くへドライブに行っています。利用者の会いたい友人を家族に伝え、面会や友人宅にも訪問する支援にもつなげています。本人の希望で、長時間かけて徒歩で墓参りに出かけたり、デイサービスを利用している友人との交流を楽しみにするなど、馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、歌を唄われたり、ボール遊びをされたりとコミュニケーションを摂りながら良い環境作りが出来るよう支援に努めている		

グループホーム このみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後、電話連絡があったり、困りごとがあれば訪問させて頂いたり交流をもっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌を唄われている方には一緒になって歌ったり家事をしたい方には洗濯物をたたんで頂いたり一人ひとりの思いに寄り添う支援を行っている。	入居時に本人や家族から生活歴や趣味などを聞きアセスメント用紙に記載し思いの把握に繋げています。入居後は、関わりの中で気づいた情報などを活動記録に記録し、支援経過にまとめています。意向の把握が困難な時は、言葉だけでなく表情や行動などから検討し、意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から聞いて本人の詳しい情報をもとに対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で一人ひとりの表情を大切にしながら、本人様に寄り添いながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの中で寄り添いながら本人の想いや家族からの情報や職員からの情報により介護計画を作成している	アセスメントや本人・家族の思いを基に介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとに再アセスメントをして介護計画を見直しています。サービス担当者会議には医師や職員、管理者等が参加し、介護計画の見直しにつなげています。状態に変化があれば都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは毎月行っているのでその都度職員間で情報交換をして介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族の一人ひとりの、その時の状態により生まれるニーズには極力対応できるように努力している		

グループホーム このみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防教育機関等、訪問して関わりを持って頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診に来て頂いたり通院されたりしてその時々の状態を伝えている	其々のかかりつけ医に受診をしたり、往診を受けています。受診は家族が付き添い、必要に応じて職員も受診の支援をしています。また、看護師が利用者の健康チェックを行い、体調の変化など気づいたことは、医師や職員等と連携を図り、24時間連絡が取れる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの変化など気付いた点は看護師に伝えて早めの処置が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等は来院し安心して頂けるよう支援し、病院機関とは情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について家族の方と話し合いを行い想いに寄り添えるよう事業所も医療との連携に努力しています。本人の状態の変化に応じ支援のあり方を家族、医師、看護師と話し合い事業所、医療と連携をもって支援に取り組んでいます	入居時に看取りを行う方針があると家族に説明しています。重度化し終末期にある利用者には主治医が家族に伝え、意向の確認を都度行い、主治医、看護師、家族、職員と話し合いながら対応しています。地域で暮らし続け、皆に見守られながら最期を迎える事は自然なことと職員は捉え、前向きに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で話し合ったり、初期対応など落ち着いて実践できるよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練は行っているが地域との協力体制は、近隣の方々とは連携が取れている。	年2回の災害訓練は、業者の協力を得て併設の小規模施設と合同で行い、昼間を想定して避難場所の確認や避難誘導の方法、初期消火の訓練を行っています。訓練には地域住民の方に参加してもらっています。	夜間帯の職員数が少ない中で避難誘導や協力体制の確保など、夜間を想定した災害訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的にならないよう受け入れの対応をする様心がけ、利用者の尊厳を守るよう努力している	新人採用時やミーティングの中でマニュアルを用いて高齢者の尊厳に配慮したケアのあり方について学んでいます。言葉遣いが命令口調になっていないか、排泄時の声かけや対応が羞恥心やプライバシーに配慮しているかなど、日々話し合い振り返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんとのコミュニケーションを大切にしたいを伝えてやすい環境作りに協力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌が好きな方には歌を唄って頂いたりとのびのび生活できる様に努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされたり髪の毛を染めたり毎日の洋服を自分で選んだりとおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後テーブルを拭いて頂いたり出来る事は進んでして頂いています	献立は、利用者の希望を聞き、職員が立てています。豆むきやテーブル拭きなど個々に出来ることを行っています。出前を取ったり、外食、駐車場でバーベキュー、タコ焼きなど、食事を楽しんでもらう取り組みを行っています。それぞれのテーブルの位置で職員も同じ物を食べ、団欒のひと時となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴時の後には水分補給をして頂いてこまめな水分補給を心がけている。自分から言ってお知らせする人もいます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後出来る方には歯磨きをして頂いている。義歯の方には夕食後は必ずして頂きポリアドント等に付けて頂いている		

グループホーム このみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動パターンを把握しその都度声かけをしトイレの自立に向けて支援し居る	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせて定時、随時に誘導し、トイレで排泄ができるよう支援しています。尿意が訴えられない利用者の行動パターンも把握してトイレ誘導を行い、夜間もトイレで排泄が出来るよう支援し、失敗が減らせるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日に何回かに分けてこまめに水分補給をして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調に合わせて週2回ほど入浴されています	入浴の準備は毎日行い、週2回を基本に午前から午後に入浴してもらっています。拒否される時は、一緒に歌を歌いながら誘導したり、声かけやタイミングを工夫して入りたい気持ちになってもらえるように努めています。また、柚子等で季節の湯を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間には歌を唄われたり外出されたりと活動して頂き夜間にはよく眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自個別に薬を分け、服薬時にはその都度確認し服用して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人できることは進んでして頂いている(ボールあそび歌を唄われたり)ドライブ・外食・喫茶店にと気分転換に外出して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・喫茶店・ドライブ・物作りなどされたりして、みんなとコミュニケーションを取りながら楽しくされている	ドライブして喫茶店に行くなど日常的に外出するように努め、外食に出かけたり、花見や交通公園など遠出の外出支援もしています。気候の良い時期は、おやつを持って散歩に出かけたり、ベランダや玄関、駐車場、畑で気分転換を図り外気に触れるよう心がけています。	



グループホーム このみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時スーパーなどに行って買い物をして頂いていますが、自身が支払う機会は持てていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙を大切に保管され時々書いたりされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはベランダに出て季節感を味わったりはたけには季節に応じた野菜等を植えてその収穫をして頂いている	外の景色が眺められる場所にソファや畳コーナーを作り、利用者がゆったりできる居場所を作っています。換気や夏はよしずなどで暑さ対策を行い、過ごしやすく配慮しています。ぬいぐるみや利用者の作品を壁に飾ったり、食事作りの音や匂いが漂ってくるリビングは、温かで家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルが3コあり多い思いに好きな場所に座っている。談話されたり歌を唄われたりして過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は全ての私物であり使い慣れた物を使用している。家族の写真手紙等もかざられている	ベット以外の家具等の持ち込みは自由で、使い慣れたタンスやテーブル、テレビ、カーテン、のれんなど持ち込み、個々に合わせて設置しています。家族の写真や大切にしてきた品々を身近に置き、模様替えを楽しんだり、絨毯と畳を持ち込み安心して居心地よく過ごせる居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は進んで頂くようにしている。洗濯物をたたんだり、その人らしく生活が送れるよう心がけている		